

って訳ですよ。だからね、やっぱり……亡くなった人のご遺体の前というのは、私たちが尋ねる世界である訳です。

皆さん、お葬式のことを昔は何て言いましたか？日本人が培ってきた言葉ですよ。今でも使う人はいますけど、あまり使われなくなったね。『飛』って。『飛』って言葉です。この『飛』って言葉は。

この字には元になる言葉があるんです。日本人が使っている言葉の多くには、元になる言葉がある。元々言葉は古い言葉です。その古い言葉を何と言うかという、古語といいます。私は生まれが九州の熊本なんでね、皆さんが知ってる『坂』があるでしょ？坂。有名な坂：何坂でしたっけ？田原坂。たばうざかとは言わないね。原をバルと言っけ。この呼び方は古語。東国原、山原（山々が連なり、森が広がる地域という意味）：沖繩ですよ。沖繩の言葉は日本語の方言だと言われているけど、初めて聞いた時には方言に聞こえなかった。違う国の言葉かと思いました。だけど日本語でね。島です。『登』のしかたも違うのであーいう独特な言葉になったんですよ。ではこの『飛』という字の古語は何か？元になる言葉は何かと言うと……これです。『訪』。いろいろ発音はありますが、私が見た辞書では『とぶらう』となっていました。『とぶらう』が『とむらう』になった。これが元々の言葉。では意味は何かと言うと、『尋ねる』。死、死者というのは私たちに『尋ねる世界』を開くんです。



よ。生きていた時には出てこない。私の親父が亡くなってね、親父の人生とか、親父が自分にとってどんな存在か、ってことを、初めて思いましたね。そこまで考えたこともなかったですよ。兄貴は64歳でしたけども、64歳で亡くなった時ね、あー兄貴は自分にとってどんな存在だったのかなあ？って初めて思いました。父は仕事でずーっと不在だったので8歳離れている兄貴が父親みたいになんでした。小学1年の時に中3ですからね。亡くなって初めて親みたいない存在だったんだなって分かった。もちろん兄弟ですから喧嘩もしましたけど、血を分けた兄弟の繋がりのようなのは、悪くなかったのかなあって思いましたね。そんなことって亡くならないと思わないですよ。皆さんもそうだと思いますけど、亡くなった方とどんな繋がりのあったのか、どんな思いだったのか。どんな人生だったのか、どんな人だったのか。私はその中でどういふふう生きてきたのか、ってことをね、なんらかの形で『尋ね』させられているんじゃないですか？。この『死』という字は？中国の漢字だから象形文字ですよ。元はね。どういふ意味があるんでしょうね。向かって左側の方は：残骨……お骨なんですよ。で右側の方は何かと言うと、人が跪いている姿。つまりお骨（遺体）の前に跪いてる姿。というところは悲しんでいるというところですよ。

葬

死を悼んでいるということかなあ。死を前にした人が表現されているんですよ。古代中国は亡くなった草原草の上に遺体を置いたそうです。そして、雨風に晒され、風化して、土に還っていく訳ですね。そして残るのは何が残るのかと言うと……骨が残る。だから、残骨というふうに言うそうです。遺体と向き合う。お骨と向き合う訳です。死という漢字が死者だけで成り立っていない。跪く人がいて、悲しむ人がいて、初めて死という言葉が生まれる。概念が生まれてくるんですね。死者は死者だけで死じゃない訳ですよ。そこに向き合う私たちがいて初めて死という意味がある。で、その死が私たちに何を与えているかという……「尋ねていく」ということを与えてくれている。尋ねていく中で私たちの中に何が残るのか？ その人の人生を尋ねていく中で私たちに何が残るのか？ 兄貴の人生、父の人生を通して私の中に何が残っているのか？ 親鸞聖人の90年のご生涯が、その当時の門徒の方々の中に何を残したのか？ ナンマンダブツが与えられている。親鸞聖人の90年のご生涯が与えられ、それと同時に南無阿彌陀仏が与えられる。この「死」という字にね、草の上だから……ここに(上に)草を書いて、下に草を書けば何の字ですか？「葬」：だよ。つまり弔う。つてことは、死者だけのためにある訳じゃないってことだね。残された私たちのためにあるってことだね。同時にね、そこで大事

なことは何かと言うと、私たちが死者を通して尋ねていく世界をいたたいわゆる……それを持ちにした。毎回の儀式にしていたので……必ずするものとしてきたから、それを「葬儀」と言った訳です。そこにお葬式の意味がある。真宗はね、供養というかなあ、供養というものが、死んだ人のためにする。死んだ人が極楽浄土に往生するために、良いところへ行くために供養する。死んだ人が迷わないために供養する。死んだ人が迷ったら私たちに祟りがあるから、祟りがおこらないために供養する？ どうですか？ そういうような供養と決別したのが親鸞聖人。供養の意味が違う!! 供養のことを孝養(こきよう)……亡き親たちへの追善供養のこと)とも言うんです。聖人は、父母の……お父さん、お母さんの供養……つまり、孝養のためとて一返にても念仏申したること、いまだどうゆず……南無阿彌陀仏を祈えたことと仰っています。これは驚きですよ。普通一般からすれば、だてナンマンダブツを称えるのは亡くなった人のためだと思っから。ご住職がね、お通夜、お葬儀で称える。お勤めする。そして、ご法事をする。これも全部亡くなった人のためだと思っじゃないですか！ それはそれでいいんだけど、それだけじゃないってことですよ。それは残された者のために、私たちが大切な方の死を通して尋ねるためにあるんだってことですよ。そこに死という意味があるし、死の重さがある訳ですよ。親鸞聖人は養育と仰るんですよ。養われていく。育てられて

いくつことですよ。人として。生まれたいのちがどんないのちなのか。そのいのちをどういうところで私は受けとめていたのか。というのを私たちが知らされ教えられるということが、養われていくことであり、育てられていくことだと。死に触れて問いが与えられる。そこには教えるに触れる、教えるをいただいているという大きな機縁をいただく。その中で私が教えるを基にしながら、死者を通して、悲しみを通して私たち自身が実は育てられ教えられるということですよ。横須賀の隣に逗子という所があって、そこにご門徒のお宅が7、8軒あります。その中にあるご門徒の主人様が80歳になられるんですけど、長い間ご病氣で自分で食事を摂ることが出来なくなると、点滴で栄養を摂るんですよ。それで医者さんに「どうされますか？胃瘻にしますか？」と言われたそうです。胃瘻というところと賛否もあるけど、自分はそれは不自然な感じじゃないかと思うと。だから胃瘻はお断りましたと仰った。そして「では鼻からチューブで高カロリー、栄養を入れましょう。」って言われたんですって。それも胃瘻とあんまり変わりないんじゃないかと思っただけでしょう。それもお断りされたそうなんです。ですから点滴だけ。そうすると栄養が行き渡らないから、だんだんと衰弱して行く訳ですよ。それでいよいよ先生の方から覚悟してくれと言われたって訳ですよ。秋口までなまって話でしょう。住職さん、そういう状況です。その時は宜しくお願いますと言われて……そうだっていう話を。今からこういうことを話すのはどうかと思えます。

けど、やはりその時になって私が慌てたり、取り乱したり、子ども達もおりますから、困るでしょうから、今から心積もりしておきたいと……。それで葬儀のことを心配されて、いろいろ話をした訳ですよ。葬儀社で積み立てをしてるんですよ。20万円分くらいしてるというので……では、そこでやるしかないねって言ってね。20、30名の規模だと言うので、一度見積りを作ってもらったかどうか？と言ったんです。で、9月のお彼岸のお参りに行った時、私も一緒に見ながら検討しました。うねって言う話をしたんです。で、9月になってお参りに行った時に「見積もり書はありますか？」って言った。作ってもらえなかった。って言うんですよ。なんで？って聞いた。「頭で仰って、私がメモして……それだけだったんですよ。」「ってね。見積りは……聞いたんだけど、なんかごまかされたみたいで……。見積りを作らない業者はいい加減だね。いざとなったらドーンと凄い金額になつたりする訳やな。見積りは必ず作ってもらった方が良いでしょう。それで出来れば住職に見てもらってね、これはいらぬとかいろいろチェックしてもらおうと経費が抑えられると思います。それは良いとして……。それでその時に葬儀屋さんか、お寺さんは決まってるんですか？」って聞いてきたので、「ええ、決まっています。私のところは横須賀の長願寺さんです。」「ああ、そうですか。そちらは何宗ですか？」って聞かれて「真宗です」と答えられたそうです。そして「知らんね。」って言ったって言うんです。知らんじゃねえだろ!!

10回くらい葬儀で行ってるのに、(笑)ほら、ワラ8軒のご門徒がおられたりさ、この27年間のうちにどなたかは亡くなられてるんですよ。だから必ず私は行ってるんですよ。私の地元、80軒くらいのご門徒がおられるんです。私が寺に入ってから今まで27年間、誰も亡くなってないお宅はないですからね。なので、この前あらためて氣づかされました。あ、皆亡くなってると。そうなんです。死というものはものすごく身近なんです。いつでもあること。いつおこるかは分からない。これは皆平等だね。そしてらねえ、その葬儀屋さんかね、「真宗の長願寺さんかあ、知らんなあ。真宗大谷派：東本願寺かあ。」って言った後に、何と言ったかと言うとね、「あ、あそここの宗旨は変わってますよねえ。」って言ったって、(笑)聞いてビックリした訳よ。「じゃあ、何が変わってるって言ってましたか?」って聞いたの。そしたらね、あそこ坊さん達は、「ご本尊の阿弥陀様を持ってくるんだって言う訳。分かりますか?」本堂にあるご本尊を持って来る訳じゃないですよ。三拵本尊と言って、小さなご本尊があるんですよ。あるいは掛け軸になったご本尊を持って行くんですよ。真



宗は、ご本尊を心にしてお勤めするんですよ。だからそう言うてことはその葬儀屋

さんの地域には実は真宗のお寺はないんです。浄土真宗のお寺はないんだね。皆、他の宗旨。天台、日蓮、真言、禪

宗ですよ。そういう宗旨だ。そこ坊さん達は：「言えば、あそこ坊さんは変わってる。阿弥陀様を持ってくる訳だから。普通は持って行かないよね。持って行かないってどういつことかと言うと、それは、祭壇なんだね。で、その祭壇に阿弥陀さんかおさまると、お荘厳^{しやうこん}なの。教之になる訳や。教之を表わす訳や。だから置かない、とはもう教之じゃないよね?」じゃあ何なんだ?って話。何かと言うと、お坊さんというのは修行をしていうじやない、お経にも靈驗あらたかな力があるから、その力でもってお経のころを修行したお坊さんにも力があるから：「どんな力があるか」というと、死んで良いところに行くように導く力があるという、ことね。それを引導^{いんどう}って言います。引導を渡す儀式だね。あんたは迷いませんよ、ということだね。死者の魂が迷わないって話ですよ。迷ったら案ずるでしょ?という価値観と、そういう思想と決別してるんだね。真宗は、私のいとこが愛知県にいてね、ずいぶん前の話ですけど、父の姉の子ども。そのいとこが50歳で癌で亡くなったんですよ。その時にお参りに行きまして。親父と一緒に。そのお宅は日蓮宗だった。日蓮宗はまた、賑やかやねえ。シャコンとかね。式の途中でお坊さんが立ち上がって、棺の前に行き、棒を持って、「引導おー。」って言ったの。おーってビックリしました。あーこれで引導渡したから、この方はもう迷

ないです。よってことなんだね。あーそういうことなのかなと思
いました。だから阿彌陀さんがいなければ死者中心。人間
中心です。もっと言うならば、人間の思い中心。自分、善
い、悪いかが中心。だから自分らしいお葬式とか、自分
らしい飾り方とか……なる訳ですよ。自分中心だ
から、煩惱ですからね。それは、自分の善い、悪い、か
つてです。南無阿彌陀仏の、ご本尊様をここに、ご安
置することとは、それは善いとか悪いを超えてるの。
好みとは関係なく、その人は生まれて、かけがえのない人
を生きたという尊厳ですよ。で、その姿を見ながら
私たちはどう思うかというと、自分の好みとか、死にたくな
いとか、もしかして成仏してなかつたら禁るんじゃないか
へタすると、もうこんな面倒くさいことはやめてしまいた
いなんて思うことも出てくる訳ですよ。簡単に、簡単に
簡単にしていこうと。煩わしいことはやめていこうと。子
供達に迷惑なかるから、迷惑かけないように……と言
いながら実は、簡単に簡単にしていく。……といふことはどう
いうことかと言つと、その人の存在がすごく軽くなる。決
して軽くなる訳じゃない。姿勢の問題だね。お金を
かける、かけないという問題じゃない。なかなか難しい問
題ですよ。生きている時の人間関係良ければね。
思ひは熱くなるしね。悪ければ親でもねえ。葬式勤め
たくなんて思ひになる訳ですよ。そういう私たちの
ころろなんだなあってことはね。やっぱり教えに触れな
きゃ。照らされなきゃ見えて来ない！「経教は鏡なり
と言ふ言葉があります。教えは鏡ですよ。鏡の前に立

ては自分の姿が見えるじゃないですか。皆さんは今、
お話しを聞きながら、自分のことをきくと考へてい
うしたんじゃないですか？ つまり言葉が鏡のはた
らきをしてる訳ですよ。自分の考へ方、生き方、死
老い、病をどう受けとめているか。自分の気持ち
自分の中にこうやって確かめられてくるじゃないです
か。鏡って訳ですよ。南無阿彌陀仏を別な
表現で言つと、「きみよりむりよりじりじり帰命無量寿如来」「南無不可
思議光」。今日のお勤めの最初の二行です。そ
れで「南無阿彌陀仏」を意味します。帰命無量
寿如来……無量寿と言います。南無不可思議光
……無量光と言います。ご一緒に読みましょう。
「むりようじゅ」「むりようじゅ」……これを南無阿彌
陀仏と言います。それを形で表わしています。じゃあ
この無量寿って何かと言つと、「寿」は、「いのち」とし
ておきましょう。あるいはもっと遠く言ひ方をす
ると、私たち一人一人の存在。はかり知れぬ一人一
人の存在。いのち。確実にそこには、沢山いるけれど
も、一人一人ですよ。その一人一人の存在は「光」。光
は何かと言つと輝きだね。それを別な言葉で
言えば尊厳だね。いのちが光。存在は光。私たち
も亡くなつていかれた方々お一人お一人も、みんな存
在は光。それを象徴している。形で表現して
くたさっている訳です。その存在は、光はお互いが光
で尊厳だから、そこには、お互いが支え合つて生きる

という尊厳がある訳でしょう？だから浄土っていう世界は、支え合っている世界を表す訳。だから光なんだねえ。阿弥陀の光に照らされて歩む道って（サブテーマに）書いてあるから。阿弥陀っていうのは、存在は光尊厳。亡くなった方のね、人生、お姿。そういうことの中に私たちは尊厳というものがそこです。実は教えられているのではないでしようかねえ。そういうことを私たちに伝えていくための教として南無阿弥陀仏という言葉が表現された。なぜかと言うと、私たちは、その尊厳のある人生を善悪のところで、尊厳でなくしてしまう訳ですよ。尊いものを尊くしなくする訳だ。皆さん、NHKスペシャルの「彼女は安楽死を選んだ」という放送観られましたかねえ？あれはショックでしたねえ。神経難病の多系統神経萎縮症という、身体の機能が失われていく、病気で、身体の機能を失って生きること、尊厳を見出せない。自分が自分であるということは、さうやって動いて、生活出来ること、自分が自分であること？それが失われたら、もう自分じゃない……。私たちは思いますよね。私が私であるうちに安楽死を施してください。スイスの安楽死団体に依頼して医師が処方した安楽死の薬を自分で点滴でね……。その姿が放映されたんです。凄かったですね。自己決定。ヨーロッパだから。その人が考えることを認める訳だね。尊重する訳だ。自己決定ですよ。自己決

定していく権利がある訳だ。民主主義だから。けどさあ、その自己決定した中味がさあ……自己決定してる土台は問わない訳だね。自己決定だけは認められている訳だから。どうなんだろう？ああって思ったなあ……。身体の機能が失われたら自分が自分でない？よく分かるけれども……。寝たきりになった方は尊厳がないんですか？自分の思いどおりに身体が動かない方って沢山いらっしゃる訳じゃないですか。それは尊厳がない訳じゃないですか。ああ、うう、後には尊厳がない。税金の無駄遣いだと言って、やまゆり園で植松容疑者が32人の人を殺害した訳ですよ？優生思想に繋がっていきませんかねえ。善悪ですよ。でもそれは私たちには分かりやすいんですよ。私たちの中にあるから。不具合なものは排除だ。都合の良いものだけ、役に立つものだけ。便利で合理性のあるものだけが価値があるというね……。そういうものに私たちはどっぷり浸っているんです。だから今はネットとかパソコンを使いこなすことが出来ない人はねえ、もう社会の中で用無しになってきますからね。（笑）捨てられていきますよ。ゼーんぶロボットが代わりに仕事するんやろ？人間はロボットに使われるんよ。テクノロジークラウド使われるんや。SNS（ソーシャルネットワーキングサービス、略）を駆使してビジネスを展開していく一部の人が我々の上に君臨する富裕層になっちゃうんや。あとは皆、その他大勢だね。その格差がすごく開いてくる。みんなアメリカ資本ですよ。

アメリカ人が使っているものの上で私たちの社会は成り立っているんですよ。ガ-ファだから。ガ-ファ。(笑) 買いたいものはどうして買いますか？ ネットショッピングですか？ 本を買いたいのはアマゾンかい？ 買うと、「あなたの嗜好する本はこういう本です」ってすぐに来るんですよ。全部支配されるんやねえ。考え方も発想も情報も縛り付けられていく訳よ。このスマートフォンの中に。電車に乗ったらさ、9割の人が観てるよ。いやー。外は混沌だ。混沌の中にいると精神的に苦しいから。静かな時間が欲しいんですよ。人間って。だから京都へ行こう。となる訳ですよ。温泉に行きたいとか、足湯に浸りたいとかなるんですよ。昔の人はね。お墓にお参りに行ったり、お内仏の前座したり、お寺に行ったりして静かな時間を保ったんや。静かな時間を。今はその時間が無くなつて。みんなスマホの中へ。静か。不気味なくらい静かよ。電車に乗ってる人たちは。そりゃあ息苦しいから。でもあれは逃避してるとだよね。... すいません、元に戻りましょう。いのちは光だね。そうやって私たちの中でいのちは光というその尊厳に背いていくんですね。けれども亡くなった方、その雰囲気は凜とした空気がある。その亡くなった姿... そこには尊厳があります。それと同時に私のこうが尋ねられていく。遺体だけの世界だった。それは自分のところで尋ねていくことになる。ナンマンダブツを通した尋

ねにならなくちゃならない。なので南無阿彌陀仏の「本尊様を安置する」訳ですよ。そこで本当の仏事になるんです。そういうことをこの頃、感じていることでもあります。誰にとっても大切な教です。死は誰にでも来ますから。で、そこに阿彌陀さんの光、つまりいのち。そこに阿彌陀と云うことを通して私たちの尊厳に触れていく。そういうことを表わしてくださっているんですよ。ドイツの憲法の第一条は尊厳。読むと「人間の尊厳は不可侵」... 不可侵。おかしいない。なぜそんな憲法になっているのか？ 歴史があるからですよ。ユダヤ人を殺したから。だからそこに歴史の重みがある。私たち人間は間違いを起こす。善悪。判断でいつの時代でも間違いを起こす訳だ。間違いを起こしてるんじゃないかってことをどこかで立ち止まってみる世界がないといけない。それは手を合わせるしかないんですよ。ナンマンダブツの世界だ。尊厳だけだと倫理になっちゃう。なんのためのナンマンダブツかっていうと、その尊厳に背く私たちから宗教があり、仏教がある。そういうことではないでしょう。今日はご縁をいただきまして、有り難うございました。

(終)

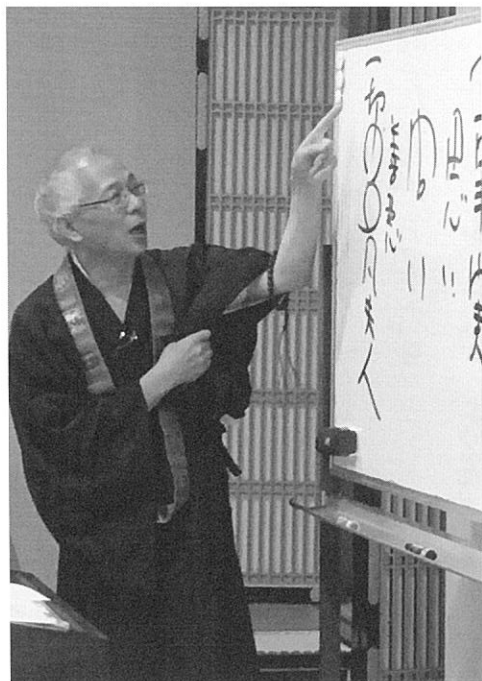
二〇一九年十月十九日

海法龍先生に法話

(文責・高德寺住職 釋義祐)



真宗に縁をいただいたら
 ぶっぽうちようもん
 仏法聴聞の場に
 この身を据えて
 歩いていきたいですね。



阿弥陀さんの光に照らされ
 てはじめて人間は、自分
 に「?マーク」がつくのでは
 ないでしょうか…。
 ご一緒に、お念仏をお称
 えいたしましょう。



今回も沢山の方々にお参りを
 いただきました。そして、海先生、
 ご出講いただきました。誠に有
 り難うございました。
 2020年の報恩講は、このように本堂
 で(このような密な状態で)のご
 聴聞はかなわないかもしれませ
 ん…。現時点ではどうなるか
 分かりませんが、安全を考慮し
 て検討していきたいと思ってい
 ます。南無阿弥陀仏、南無
 阿弥陀仏…。

あとかぎ

2019年の報恩講の法話をお届けいたします。

“誰にとっても大切な教え”というお題を

お願いしてお話いただきました。我々の

思いと身の事実のギャップが苦悩を生

む…どんな人にも“教え”が必要

なのだと、いうことを

丁寧にお伝えいただ

いたこのご法話を味わっていただ

きたいと思えます。新型コロナウイルス

感染拡大で、今まで当たり前だと思ってい

たものが、実はすべて有ること難しの

おかげさんだったんだなあということに氣

づかせていただいた。2020年のお盆です。合掌

釋義祐 拝

発行日

2020.7.13

発行

真光谷派 高德寺

編集

住職 新井義雄
(法名 釋義祐)

TI64-0002

東京都中野区

上高田 1-2-9

☎ 03-3368-6947

FAX 03-3362-8019

表紙の絵『大谷廟堂』
おあたにびやうどう
(本願寺の原点、親鸞聖人のお墓
御絵伝から模写)